

E-2 乳児の言語発達

林野高 額田 節美
美作短大 ○額田 清

1. 本研究は乳児期（言語準備期・形成期）における言語発達の状況を明らかにしようとするものである。

2. 資料はない。

この研究の対象となったのは、既報の2人のきょうだいの下に生れた妹であり、その言語的環境は相当明らかになっている。

調査は幼児の音声を定期的に録音機によって録音し、また随時のメモによってこれを補充したが、対象児に録音を嫌う傾向があり、十分な資料はえられていない。

3. つぎのような結果をえた。

乳児の発声はそれが自然音であるか言語原音であるかの判定が極めて困難であるが、4～5か月で[e][u][a]等の母音を使用する。

5 か月および7 か月で [pu:] 音をしきりに用い、また12か月以降 [t] [cj] の舌うち音を意識的に発する。

11 か月以降 [u:] [un] [a:] [æ:] の明瞭な要求音をしきりに用い大ていの用件はこれですませる。

言語としては12か月の“ンマ”（食物）および“ブー”（水・お湯）が最初であり、これ以後1か月の間は新語の出現はない。

この研究は文部省の助成金の支給を受けてなされたものである。厚く感謝する。